

治療と職業生活の両立支援セミナーが開催されました

治療と職業生活の両立支援セミナーが、1月22日、岡山ふれあいセンターにおいて開催されました。このセミナーは、岡山労働局と岡山産業保健総合支援センターとの共催で行われ、企業の人事・労務担当者など130名が参加しました。

岡山労働局金田労働局長の挨拶を皮切りに、岡山産業保健総合支援センターの成川彰浩両立支援促進員が、「安全・安心な職場づくりに向けて」と題し、両立支援促進員による個別訪問サービスの内容や、公的制度の活用等について講演しました。



成川彰浩両立支援促進員



池田房雄外来医長

続いて、岡山大学病院消化器内科助教で外来医長の池田房雄氏が、「肝炎が治せる今、健康経営上必要な支援等とは」と題し講演しました。池田氏は、「肝炎の治療は新薬の開発により治せる病気になっており、医療費制度も整ってきています。」と呼びかけました。肝炎・肝がんの治療の現状や、患者さんが治療と仕事の両立をするための岡山大学での取り組みを紹介し、多くの参加者が熱心に耳を傾けました。

休憩の後、旭化成株式会社水島製造所の産業医で、岡山産業保健総合支援センターの伊藤森産業保健相談員が、「事業場における両立支援～事例から取り組みを考える～」と題し、がん治療後の労働者の体調は個別性が高く、会社の理解と適切な配慮がなされることで両立支援が進むことについてご講演をしました。社内制度整備の必要性はあるのか？会社が困っている事、労働者が困っている事は何か？これらの疑問を産業医として関わった実際の事例を交えて分かりやすく説明しました。



伊藤森産業保健相談員



石崎雅浩腹部外科部長

最後に、岡山労災病院消化器病センター長で腹部外科部長の石崎雅浩氏が、「がん患者さんにおける両立支援」と題し講演しました。がんは長く付き合う慢性病に変化していることや、両立支援には事業者の役割として職場の風土づくりが大事なこと、がんの患者さんが治療を経て復職する際、どのような支援が必要なのか等、岡山労災病院の臨床医として関わった事例を数多く挙げ、とても説得力のあるお話で会場を魅了しました。